

【柏市・オリコンサル 交通安全プロジェクト開始 事故削減へ実証実験  
運転リスク情報見える化など】

交通安全プロジェクト開始

事故削減へ実証実験

運転リスク情報見える化など

柏市・オリコンサル

オリエンタルコンサルタンツは、柏市共同で交通安全に関する実証実験プロジェクト「柏市交通安全プロジェクト」を開始した。ドライブレコーダーを車に設置し、運転リスク情報の見える化を行うことに加え、柏市の公道車の事故削減、柏市域の交通安全事故削減を目的として、ドライバーに対する安全教育と「インフラ施設」に対する改良提案を行う。期間は11月から16年3月まで、11月から順次ドライブレコーダーの取付と各種付加サービスを実施し、15年4月から走行データを基に危険箇所抽出と対策立案、ヒヤリハットマップの作成を行う。実験状況や結果は、広報誌やホームページでも公開する。

交通事故の発生要因として、主に「ドライバー」(人)、「インフラ施設(道路環境)」、「車」(物)に分類される。このうち、ドライバーに働きかけるのは、同社の事故削減・安全運転分析支援サービス「車録ジャーナル」によるドライバーに対する安全教育、「インフラ施設」に働きかけるのは、同社の地域の交通安全事故削減支援サービス「Drワトソン」によるインフラ施設の改良提案。

1件の大きな事故の裏には、29件の軽微な事故、300件のヒヤリハットがあるといわれており(「ハイリット」の法則)、重大事故防止のためにはヒヤリハットの段階で対

「Drワトソン」では、ドライブレコーダーの映像からヒヤリハット要因を分析し、より効果的な道路施設に対する改良提案を行うことが可能になるとも、急減速が多い箇所を明示したヒヤリハットマップを作成し、地域住民に情報発信することによって、住民に危険な箇所を伝える。今回の実証実験により、地方公共団体が民間

「Drワトソン」では、ドライブレコーダーの映像からヒヤリハット要因を分析し、より効果的な道路施設に対する改良提案を行うことが可能になるとも、急減速が多い箇所を明示したヒヤリハットマップを作成し、地域住民に情報発信することによって、住民に危険な箇所を伝える。今回の実証実験により、地方公共団体が民間

企業のノウハウを取り入り組むことによって、地域での交通安全取組が期待されている。